

K O N A N

学校法人 **甲南学園**

甲南大学 甲南高等学校 甲南中学校

平成19年度 事業報告書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで





学校法人甲南学園
理事長 吉沢英成

甲南大学、甲南高等学校・中学校を設置する甲南学園は、
1919(大正8)年の旧制甲南中学校の設立にさかのぼります。
甲南を支える大きな精神的支柱である創立者の平生鈞三郎先生は、

本校八学校教育ノ現状ニ満足セザル有志ノ者共ガ集マツテ、
知育偏重ノ弊ヲ避ケ、「人格ノ修養」「健康ノ増進」ヲ第一義トシ、
「個性ヲ尊重シテ天賦ノ特性ヲ啓発スベク、
知的教育ヲ施サン」トノ主旨ヲ以テ創立イタシマシタ

高等学校第1回卒業式 / 1928(大正15)年

と述べています。

本学園は、現在も尚、この気概と品格ある平生精神をもとに、
教育・研究の質を高め、本学園の社会的使命を達成することを目指しています。

はじめに

皆さまには、ますますご清祥のこととおよこび申し上げます。本学園の平成19年度(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。中期経営計画2年目にあたる平成19年度は、「教育機関としての経営資源再配分」を主軸の課題に掲げ、平生精神のもと培ってきた「人物教育率先」の伝統を再活性化させることを基軸として、これまでの取組の一層の展開を図るとともに、同計画に掲げる主要事業(西宮新キャンパス・新学部の開設準備に伴う学舎建設、理工学部の再編、学園創立90周年記念募金事業)に取り組みました。これらの取組を通じて、甲南の追求すべき平生の夢「甲南100年の計」の実現を目指し、量ではなく質を追うクオリティーリーダーとして、個性溢れる学園づくりに努めてまいります。皆さまにおかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

中期経営計画(平成18年度～平成22年度)

大学関係

「人物教育率先」に基づき、いま大学教育に求められている質に先駆的に挑戦する新学部の開設
知能情報学部開設
平生鈞三郎記念「マネジメント創造学部」
CUBE西宮開設準備
FIBER(先端生命工学研究所)がリードするFIRST
「フロンティアサイエンス学部・フロンティアサイエンス
研究科」FAMEポートアイランド開設準備
特色ある甲南教育プログラムの推進
「甲南90周年栄誉スカラシップ」スタートなど奨学金・
表彰制度の充実
独創性溢れる研究・社会貢献・地域連携活動の展開
学生生活の質を高める環境整備

高等学校・中学校関係

平生精神をバックボーンとする中高6年一貫
(2-2-2、基礎・応用・発展)の教育システムの構築
日常の学習意欲喚起の体制づくり
スポーツなど課外活動の活性化による徳・体・知力
の増進
海外提携校との交換留学・交流活動による国際
感覚の涵養
教員組織の教育力の増進

法人関係

経営基盤整備
中期経営計画遂行のための学園資金計画
(新学部の完成年度までを含む)の策定およびその実行
各年度予算策定における長期的ガイドラインの再確認
事務組織体制の活性化
「個性を力へ。」を標語とする学園の戦略的広報
活動の展開
学園90周年記念事業(「人物教育率先」創業者
平生鈞三郎記念教育振興、六甲アイランド総合体
育施設整備、高等学校・中学校新体育館整備)
募金の展開

甲南学園のあゆみ

個性尊重の理念を掲げて開学。約90年間にわたり、その独自の教育を深め、確立してきました。



学園創立者
平生鈞三郎

平生鈞三郎は、1866年武門に生まれ、東京海上火災保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献、川崎造船所を再建するなど実業界で広く活躍しました。甲南病院の設立など社会事業にも深く関わり、政治においては、広田内閣の文部大臣として義務教育の年限延長、師範教育の改善を強く提唱しました。教育理念として、「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重し、各人の天賦の特性を伸張させる」を掲げ、甲南中学校、さらに7年制の甲南高等学校を創立しました。

2009年に
創立90周年を
迎える甲南学園

- 1918 財団法人甲南学園
私立甲南中学校設立認可
- 1919 私立甲南中学校開校
- 1923 7年制甲南高等学校開校
- 1948 新制甲南高等学校開校
- 1951 甲南大学設置認可、甲南大学開学
文理学部設置
- 1952 経済学部設置



CONTENTS

甲南学園の構成

設置する学校・学部・大学院等(平成20年3月31日現在)

甲南学園			
甲南大学・大学院			
学部・学科	文学部	日本語日文学科 社会学科 歴史文化学科	英語英米文学科 人間科学科
	理工学部	物理学科 機能分子化学科	生物学科 情報システム工学科
	経済学部	経済学科	EBA総合コース
	法学部	法学科	
	経営学部	経営学科	
大学院	人文科学研究科	修士	博士
		日本語日文学専攻 英語英米文学専攻 応用社会学専攻 人間科学専攻	日本語日文学専攻 英語英米文学専攻 応用社会学専攻 人間科学専攻
	自然科学研究科	物理学専攻 化学専攻 生物学専攻 情報システム工学専攻	物理学専攻 生命・機能科学専攻 情報システム工学専攻
		社会科学研究科	経済学専攻 経営学専攻
専門職大学院	法学研究科(法科大学院)		
	ビジネス研究科(会計大学院)		
センター・研究所・図書館	キャリアセンター	情報教育研究センター	国際言語文化センター
	広域副専攻センター	スポーツ健康科学教育研究センター	国際交流センター
	教職教育センター	カウンセリングセンター	EBA高等教育研究所
	CUBE高等教育研究所	人間科学研究科	フロンティア研究推進機構
	先端生命工学研究所	総合研究所	ビジネスイノベーション研究所
	企業法務研究所	図書館	サイバーライブラリ
	甲南高等学校・中学校		

甲南学園が設置母体の在外教育機関(フランス)

フランス甲南学園トゥレーヌ	
高等部・中等部	

- 1957 文理学部を文学部と理学部に分離
- 1960 法学部・経営学部設置
- 1963 甲南高等学校・中学校が岡本から芦屋市に移転
- 1964 大学院人文科学研究科、自然科学研究科開設
- 1965 大学院社会科学研究科開設
- 1991 トゥレーヌ甲南学園(現フランス甲南学園トゥレーヌ)高等部・中等部を開校
- 2001 理学部を理工学部に変更
- 2002 経済学部・経営学部(EBA総合コース)を開設
- 2004 大学院法学研究科(法科大学院)開設
- 2006 大学院ビジネス研究科(会計大学院)開設
- 2008 知能情報学部設置

はじめに 1

はじめに
甲南学園のあゆみ
甲南学園の構成

事業の概要 3

ハイライト.....3
 新学部の設置・開設準備
 経営学部のプログラムが文部科学省「現代GP」に採択
 学園創立90周年記念事業募金5億円達成
 ネットワークキャンパス東京のサピアタワー(東京駅直結ビル)移転と首都圏での活動強化
 戦略的広報の展開
 大学・大学院.....7
 高等学校・中学校.....13
 法人.....14

財務の概要 15

平成19年度決算の概要
 資金収支全体概要
 平成18年度決算・平成19年度予算及び決算の比較
 資金収支計算書(学園総括)
 消費収支計算書(学園総括)
 消費収支決算(部門別内訳)構成比率
 貸借対照表
 消費収支決算の推移(学園総括)
 財務状況の推移(学園総括)
 財務比率の推移(学園総括)

法人の概要 23

名称
 法人設立の年月日
 設置学校
 役員
 土地と建物
 専任教職員数
 学生・生徒数
 卒業生累計数
 事務組織図

ハイライト

Highlight.1

新学部の設置・開設準備

知能情報学部の設置(平成20年4月)届出



ユビキタス環境を実現した知能情報学部の校舎(13号館)

「高度情報化社会でリーダーシップのとれる人材育成」をさらに推し進めていくため、「知能」という観点から理工学部・情報システム工学科を改組した「知能情報学部」の開設準備を進め、平成19年7月に文部科学省から同学部の設置届出が受理されました。本学にとっては半世紀ぶりの新学部となります。入学定員120名(収容定員480名)で、「Webコミュニケーション」、「ヒューマンインテリジェンス」、「マシンインテリジェンス」の3コースを設け、各学年で徹底したフェイス・トゥ・フェイスのインタラクティブ(双方向)教育により、本学の教育理念である人物教育を率先し、骨太の人間力と高度なIT技術を兼ね備えた、国際情報化社会で真に力を発揮できるプロフェッショナルを育てます。研究設備面においてもモゼミと連動して活用できるさまざまな設備の充実を図りました。

また、開設を記念し、内田伸子氏(お茶の水女子大学副学長)、野村淳二氏(松下電工株式会社副社長)を招き「人の知、機械の知」と題した講演会を実施し、250名を超える参加者がありました。

マネジメント創造学部[CUBE]開設準備

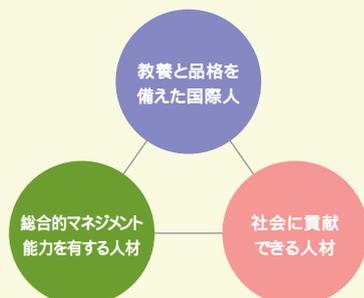
平成19年6月、西宮市高松町(阪急西宮北口駅南側)において、9階建ての新キャンパス「甲南CUBE西宮」の建設に着手しました。平成21年4月、同キャンパスに「マネジメント創造学部」を開設し、「経済」「経営」を融合した実践的な教育を行います。

同学部の授業は、少人数のプロジェクト型学習スタイルが中心で、学生はプロジェクトテーマを深めることで、「自ら考え行動する力」、「仲間と共に解決する力」を培っていきます。英語教育や国際交流を重視し、専門科目の一定割合は英語で講義を行うほか、留学などさまざまな海外体験の機会を拡充する予定です。また、リベラル科目では本物の芸術や文化に触れ、心動かされ、「活動力ノ旺盛」、「明朗ナ英気」を涵養する教育を行います。さらに、EBA総合コースを継承する「特別留学コース」を設置し、より英語教育に力を入れます。なお、

大阪と神戸の中間地点という立地を生かして、企業や地域社会との積極的なコラボレーションも目指しています。

1学部1学科(マネジメント創造学部マネジメント創造学科)入学定員180名(収容定員720名)で届出準備中です。

CUBEの育成する人物像



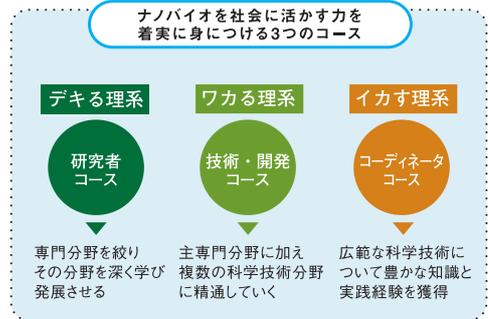
5階アトリウムのイメージ図

フロンティアサイエンス学部・研究科 [FIRST] 開設準備



甲南FAME(FIRST-FIBER棟)イメージ図

平成19年6月、平成21年4月の設置を目指して新たに「フロンティアサイエンス学部・研究科 [FIRST] (ポートアイランド第2期地区 次世代スーパーコンピュータ設置隣接地)」に開設する構想を発表しました。平成20年3月には、神戸市中央区港島南町において、新キャンパスの建築に着手しました。同学部・研究科では、次世代科学のカギを握ると言われるバイオテクノロジーとナノテクノロジーの融合理系領域(ナノバイオ)を学び、「夢を想像し、サイエンスで創造する」人材を育成します。学部の1学年定員を35名の少人数に設定し、一人ひとりが自



身の研究場所「マイラボ」、業界第一線の先駆者達に学ぶ「フロントランナー講座」、学会・シンポジウムに参画しサイエンスの最前線を体感できる「サイエンスライブチケット」等を用意するほか、開設にあわせて同地へ移転する先端生命工学研究所(FIBER)と密接に連携した最先端の教育・研究を提供します。また、医療・創薬・食品・化粧品産業等の研究の集積地であるポートアイランドの立地を生かし、さまざまな企業や他大学研究機関との連携を目指します。

学部:1学部1学科(フロンティアサイエンス学部生命化学科)、入学定員35名(収容定員140名)
大学院:1研究科1専攻(フロンティアサイエンス研究科生命化学専攻)、修士課程及び博士後期課程、入学定員修士課程5名・博士後期課程1名(収容定員:修士課程10名・博士後期課程3名)で出準備中です。

Highlight.2

経営学部のプログラムが文部科学省「現代GP」に採択

本学の経営学部が計画するプログラム「実践的経営シミュレーション演習プログラム」が文部科学省の「現代GP」に採択され、平成18年度に採択されたキャリアデザインプログラムに続き、2年連続の採択となりました。

このプログラムは、従来の学術的側面に重点が置かれた経営学教育と現実のビジネスとのギャップを解消する画期的な取組です。Web上に、仮想ゼミナールのコミュニティを設定し、通常のゼミと連動してそれぞれの専門性を持つ各ゼミから横断的にグループを形成、「企業経営シミュレーションプログラム」によりWeb上で仲間と共に仮想企業

を実際に経営し、教員・専門家・社会の一線で働くOB・OGからサポートを受け、現場に即して学ぶことで学生に実践的な経営能力を身につけさせるものです。

これまでのゼミとも、e-Learningとも異なるアプローチで経営学の学びの新しい可能性を実践します。

現代GP「現代的教育コース取組支援プログラム」/ 文部科学省が各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学等から応募された取組の中から各大学が工夫を凝らし、他の大学等でも参考となる「特に優れた教育プロジェクト(取組)」を選定し、財政支援を行うことで、高等教育の活性化が促進されることを目的とするものです。

経営シミュレーションシステムの概念図



ハイライト

Highlight.3

学園創立90周年記念事業募金5億円達成

平成18年9月より学園創立90周年記念事業募金を開始しました。卒業生、保護者をはじめ、同窓会及び各地甲南会との連携を強化し、「人物教育率先」を掲げる甲南学園に心寄せ、賛同いただける法人企業・団体の皆様にご援助ご協力をお願いしているところですが、平成19年度末までの募金目標額5億円に対して、約5.7億円

という芳志を皆様から賜りました。

平成19年12月には、募金事業の一つである「平生鈆三郎記念教育振興事業」として、「人物教育率先平生拾芳奨学金制度」を立ち上げました。今後も、人物教育率先「甲南100年の計」の実現へ向け、継続的な働きかけを図ります。

募金計画概要

募金事業

平生鈆三郎記念教育振興事業
六甲アイランド総合体育施設整備事業
高等学校・中学校新体育館整備事業

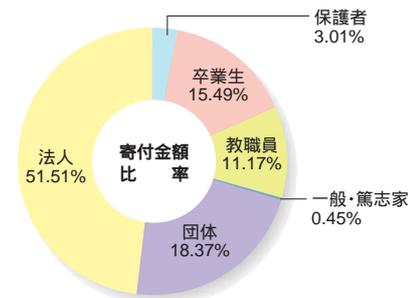
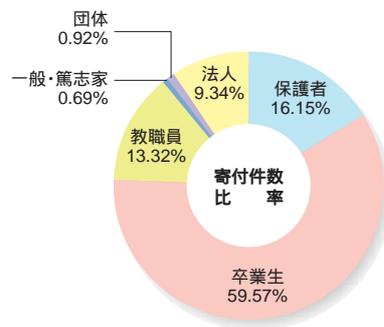
総事業費見込額 / 20億円

募金目標額 / 10億円

募金期間 / 平成18年9月1日～平成23年3月31日(4年7ヵ月)

90周年記念事業募金申込状況(平成20年3月31日現在)

	件数 (当年度累計)	件数比率 (%)	金額 (当年度累計:円)	金額比率 (%)
保護者	280	16.15	17,230,000	3.01
卒業生	1,033	59.57	88,748,517	15.49
教職員	231	13.32	64,017,000	11.17
一般・篤志家	12	0.69	2,591,000	0.45
団体	16	0.92	105,296,438	18.37
法人	162	9.34	295,190,000	51.51
総合計	1,734	100.00	573,072,955	100.00



人物教育率先平生拾芳奨学金制度

甲南90周年栄誉スカラシップ【甲南大学】

建学の精神に則した本学の学生を対象に、人物、学業、スポーツ、文化・芸術、国際交流及び社会貢献の各分野において、旺盛な意欲、活動力を喚起涵養します。

種類	給付人数 (年間)	一人当たり 給付年額	平成19年度実績	
			給付人数	給付総額
平生記念甲南栄誉奨学生	約30名	120万円	6名	180万円
アスリート栄誉奨学生	約20名	100万円		
グローバル栄誉奨学生	約10名	150万円		
リジョナル栄誉奨学生	約30名	60万円		
甲南一貫教育栄誉奨学生	数名	60万円		
トラーヌ・コミュニカティブ教育栄誉奨学生	若干名	60万円		

平成19年度は特別措置として全体で6名に給付しました。平成20年度より本格的に始まります。

甲南90周年オナースカラシップ【甲南高等学校・甲南中学校】

人物教育の率先を図ることを目的とし、甲南高等学校・中学校に在学する生徒及びクラブ活動団体を対象に、学修、スポーツ、文化・芸術、国際交流及び社会貢献の各分野において、旺盛な活動力を喚起涵養します。

種類	給付数 (年間)	給付額 (一給付当たり)	平成19年度実績	
			給付数	給付総額
学修奨励奨学金	18以内	20万円	-	-
一貫教育優秀者表彰	5以内	1万円	-	-
優秀クラブ活動表彰	4以内	50万円	5団体	200万円
海外クラブ活動交流奨励金	2以内	50万円	1団体	50万円
交換留学奨励金	2以内	50万円	-	-
留学奨励金	10以内	20万円	-	-
社会貢献活動表彰	1生徒当たり1万円 または1団体等10万円 給付額35万円以内		1団体	10万円

Highlight.4

ネットワークキャンパス東京のサピアタワー(東京駅直結ビル)移転と首都圏での活動強化

平成19年7月、首都圏における情報発信・交流拠点として機能してきた「ネットワークキャンパス東京」を東京駅に直結するサピアタワーの10階に移転し、移転を記念した開所式を行いました。サピアタワーはJR東日本が同年3月に開設、8～10階は大学フロアとして、本学以外にも多くの大学がサテライトキャンパスを構え、知の交流拠点として期待を集めています。

本学では、10月に藤田昌久氏(独立行政法人経済産業研究所所長・甲南大学教授)による連続公開講座「空間経済学と新世紀 - グローバル化と知のルネサンス」や「甲南学園創業者 平生鈞三郎を知る」を開催しました。今後もこの新たな拠点をキーステーションに、首都圏における情報発信・交流をさらに手厚く進めていくことを目指します。



従来以上に開放的なスペースを実現したコミュニティエリア

Highlight.5

戦略的広報の展開

① 読売新聞一面広告の掲載

建学の精神と新学部・新キャンパス開設に向けた展開を社会に広くアピールするために、本学の理念を「個性を力へ。」の標語に託し、平成20年1月15日に読売新聞の全国版一面で宣伝広告しました。

② 朝日新聞「朝日・大学パートナーズシンポジウム」に採択

朝日新聞大阪本社が各大学と連携して「知」の発信を目指した「朝日・大学パートナーズシンポジウム」(公募枠3校)のパートナー大学に採択され、平成19年10月、「元気なカラダを手に入れよう!!～アスリートに学ぶ～」と題したシンポジウムを本学甲友会館で開催いたしました。

このシンポジウムは、本学のスポーツ・健康科学教育研究センターが独自に考案した「甲南大学式フィットネステスト」から発想を得て、「身体を健康にするためには、こころも元気でなければ」をテーマとしたもので、末續慎吾氏(陸上短距離選手)、田中雅美氏(元競泳選手)、関谷亜矢子氏(元日本テレビアナウンサー)、藤田健司氏(整形外科医)、武田和歌子氏(朝日放送アナウンサー)といった多彩なゲストに、伊藤浩司同センター准教授も加わり、甲友会館大ホールが満員となりました。また、末續氏と一緒に「甲南大学式フィットネステスト」を体験できるコーナーを設け、「観客も参加できる」、「身体を動かす」、「人と人とのコミュニケーションを生む」等、シンポジウムの新しい形を提示し、アンケートでも高い評価を得るとともに、朝日新聞社からも「他大学のシンポジウムには見られなかった盛り上がり」との賛辞を得ました。

③ 産経新聞「ペーパー・イン・ペーパー『甲南新聞』」の発行

産経新聞の朝刊(4頁)に、全面カラー広告を掲出いたしました。当広告は、「3つの新学部概要」、「活躍する学生」、「ネットワークキャン

パス東京の活動」等のニュースを記事形式で紹介し、「甲南新聞」という体裁としたもので、本来、産経カラーを使用しなければならない紙面を全面甲南カラーとしたことから、学外においても大いに話題となりました。また、新聞紙上に掲載するだけでなく、各地甲南会や入試説明会等で別刷りを配布するなど、さまざまな機会で活用しました。

④ 毎日新聞「移動支局」を誘致

毎日新聞社が高い質の社会貢献の実現を目指して広く社会に呼びかけた「公募型移動支局」を誘致しました。平成19年12月3日から9日までの期間中、「知と地域」をテーマに毎日新聞論説委員による「政界・ここだけの話」などの連続特別講座や漫画家の西原理恵子氏と新聞について語る市民記者塾などの多彩なイベントが本学で催され、地域に密着したニュースが「神戸・甲南大学移動支局」から発信されました。



読売新聞一面広告



産経新聞「ペーパー・イン・ペーパー『甲南新聞』」

大学・大学院

1 新たな教育研究組織の設置

CUBE高等教育研究所

平成19年11月、平成21年4月に開設予定のマネジメント創造学部
の設立準備及び同学部における先端的な教育内容・方法、成績評価、
入学者選抜等の研究開発を目的に「CUBE高等教育研究所」を設
置しました。その成果をマネジメント創造学部の教育に還元するとともに、
企業及び高等学校等の教育機関との連携を通じた教育に関する
研究の拠点となることを目指しています。

2 教育

(1) 学位記の授与

学士

各学部・学科の特色ある科目配置で編成されたカリキュラムの授
業科目を履修し、厳格な成績評価を受けた上で、卒業要件単位を満
たした2,017名の学生に、学士の学位が授与されました。

学部・コース	学士(分野)	学科内訳
文学部	文学 372名	日本語日本文学科 79(1)名
	社会学 108名	英語英米文学科 103(2)名 社会学科 108(4)名 人間科学科 118(1)名 歴史文化学科 72(4)名
理工学部 (理学部を含む)	理工学 95名	物理学科 90(4)名
	工学 94名 理学 153名	生物学科 53(1)名 機能分子化学科 95(3)名 情報システム工学科 103(4)名 化学科 1名
経済学部	経済学 375名	経済学科 375(14)名
法学部	法学 414名	法学科 393(13)名 経営法学科 21(8)名
経営学部	経営学 379名	経営学科 379(21)名
EBA総合コース	経済学 10名	経済学科 10(1)名
	経営学 17名	経営学科 17(2)名

()は前期卒業生で内数

修士・博士・会計修士・法務博士

大学院学則及び学位規程により、論文審査と最終試験に合格した
69名に修士の学位が、9名に博士の学位が授与されました。また、会計
大学院を修了した29名に会計修士の学位が、法科大学院を修了した
62名に法務博士の学位が授与されました。

修士課程

研究科	修士(分野)	専攻内訳
人文科学研究科	文学 15名	日本語日本文学専攻 2名
	社会学 2名	英語英米文学専攻 1名 応用社会学専攻 2名 人間科学専攻 12名
自然科学研究科	理学 40名	物理学専攻 16名
	工学 1名	化学専攻 13名 生物学専攻 7名 情報システム工学専攻 5名
社会科学研究科	経済学 6名	経済学専攻 6名
	経営学 5名	経営学専攻 5名

博士課程

研究科	博士(分野)	専攻内訳
人文科学研究科	文学 3名	日本語日本文学専攻 1名
	社会学 1名	英語英米文学専攻 2(1)名 応用社会学専攻 1名
自然科学研究科	理学 4名	生命・機能科学専攻 4(1)名
	工学 1名	情報システム工学専攻 1名

()は前期卒業生で内数

専門職学位課程

研究科	学位(専門職)	専攻内訳
ビジネス研究科	会計修士 29名	会計専攻 29名
法学研究科	法務博士 62名	法務専攻 62(1)名

()は前期卒業生で内数

(2) 経営学部在学生在が公認会計士試験に合格

経営学部の在学生在1名が、3年次から公認会計士試験に挑戦し、
4年次で短答式試験及び論文試験に合格しました。

(3) 法科大学院生が司法試験に合格

昨年度からはじまった新司法試験に、法学研究科(法科大学院)
修了者44名が受験し、11名が合格しました。

(4) 会計大学院在学生在が公認会計士試験に合格

公認会計士試験に、ビジネス研究科(会計大学院)の在学生在3名が、
短答式試験に合格し、うち1名が最終の論文試験に合格しました。なお、
本学会計大学院においては、平成19年度第一期修了生が本学会計
修士(専門職)として初めて公認会計士試験を受験することになります。

公認会計士試験制度…平成18年に制度が一部改正され、定められた科目を修得した会計大
学院修了者に対しては、短答式試験4科目のうち、財務会計・管理会計・監査論の3科目が免除
され、企業法のみを受験すればよく、また、短答式試験合格者は短答式試験が2年間免除され、最
終の論文試験に臨むことができるようになりました。

(5) 推薦入学者への入学前教育

早期に大学への入学が決定した平成20年度の推薦入学者を対
象に、入学時までの学力維持と入学後の大学教育へのスムーズな
移行を目的にe-Learningによるメディアリテラシーを全学で、学部学科
単位では、TOEIC TEST 対策講座・通信教育・事前指導・文章作成
能力向上講座などを実施しました。

(6) 自己点検・評価の公開、及びFD活動の推進

平成18年度に財団法人大学基準協会に提出した自己点検・評
価の報告書を広く公開し、平成20年度に法科大学院の同協会認証
評価を受けるべく自己点検評価を行いました。また、FD活動としては、
授業評価アンケートを原則全科目で実施するとともにGPA制度を全
学で試行、また、外部講師を招き「FDフォーラム」、「FD研修会」等
を実施しました。

FD(ファカルティ・ディベロップメントの略)…教員の授業内容や教育方法などの改善・向上を
目的とした組織的な取組の総称。

GPA(グレード・ポイント・アベレージの略)…学生の成績評価方法の一種で、一般的には
授業科目ごとの成績評価を5段階で評価し、それぞれに、4・3・2・1・0のグレード・ポイントを付与し、
この単位当たりの平均を出したものであり、学習指導等に利用される。

(7)キャリア教育の推進

平成18年度に「現代GP」に採択された「価値創造のできる21世紀型教養人の育成プログラム」を実施、1年次から4年次までの各年次に設けられるキャリアデザイン科目群のうち1年次対象の「ベーシック・キャリアデザイン」科目、「インターンシップ・ボランティア」科目を各学部が開講しました。

また、平成20年3月、「キャリア教育フロントランナーからの提言」と題し、本事業の報告とともに、水野正人氏（ミズノ株式会社代表取締役会長）、松本明氏（神戸市東灘区長）を迎えた講演会・パネルディスカッションを実施しました。

現代GP・・・「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」P.4参照

(8)留学支援プログラムの推進

「甲南プログレス・プロジェクト」の新たな展開としてロンドン大学ロイヤルホロウェイ校（イギリス）、クイーンズランド大学（オーストラリア）、スノーカレッジ（アメリカ）の3大学と協定を締結し、Certificate（修了証）や、Associate Degree（準学士号）の取得も可能なコース等、更にバラエティ豊富な留学プログラムを提供しました。

甲南プログレス・プロジェクト・・・多様化する国際化社会において、国際人としての素養を身に付け、豊かな人格形成を実現するため、ユニークなプログラムを海外の大学と共同で開発し、年間100名の学生を海外の大学へ送り出すプロジェクト。

(9)学修支援の推進

学生への履修指導を強化するとともに、学生サービスのさらなる向上を図るため、履修登録、時間割・シラバス照会、課題提出や休講・補講・試験に関する情報、さらに大学からの伝達事項など学生向けの情報を一元的に提供する総合的なポータルシステム「My KONAN」の運用を開始しました。

(10)スポーツ強化支援

教育の質的向上につながるスポーツ教育力の強化を目指し、体育会クラブの「強化指定団体制度」と学修・学生生活に関する指導支援を開始しました。

3 研究

(1)平成19年度平生太郎基金科学研究奨励助成で3件を助成

「特に独創性・発展性が期待され、本学が特色ある中核的研究拠点（甲南COE）となり、将来において国際的な教育研究拠点の形成につながるような研究」を対象に平生太郎基金科学研究奨励助成を募集した結果、平生太郎基金運営委員会の議を経て、平成19年度の研究助成として3件を採択し、助成しました。

平生太郎基金科学研究奨励助成・・・学園創設者平生三郎のご子息、太郎氏のご令室である故平生愛子様から遺贈を受けた財産で、科学研究（医学を含む）を奨励することを目的とした基金。平成6年度より開始された学園の研究奨励助成制度。

平成19年度平生太郎基金科学研究奨励助成

単位：千円

申請者	研究課題	平成19年度助成金額
梶野文義 (理工学部教授)	「地文台によるサイエンス」 中核的研究拠点構想の推進	12,900
山崎篤志 (理工学部講師)	超高分解能光電子分光による 強相関電子系化合物の精密電子状態の解明	16,900
出口晶子 (文学部教授)	瀬戸内海世界の観光舟運 - 海からみた歴史文化と風景美の発見	1,200
助成対象研究期間は平成20年3月31日まで。		合計 31,000

(2)私立大学学術研究高度化推進事業の推進展開

この事業は、私立大学等における研究基盤の整備と研究機能の高度化を目的に、国が重点的かつ総合的な支援を行う大型プロジェクトであり、現在これまでに選定を受けた5件が推進されています。

学術フロンティア 推進事業	人間科学研究所「現代人の心の危機の総合的研究」 (平成15年度から5年間)
	先端生命工学研究所「有用な人工生命分子創製のためのテララーメド・バイオケミストリー」 (平成16年度から5年間)
オープン・リサーチ・センター 整備事業	知的情報通信研究所「知的情報ネットワークによる地域密着型教育の高度情報化に関する研究」 (平成16年度から5年間) 量子ナノテクノロジー研究所「ナノ構造システムにおける量子相関の研究」 (平成17年度から5年間)
社会連携 研究推進事業	ビジネス・イノベーション研究所「地域経済クラスター創造に向けての社会連携研究」 (平成17年度から5年間)

(3)知的財産管理体制の構築

独立行政法人工業所有権情報・研修館「平成19年度大学知的財産アドバイザー派遣事業」に採択されました。この事業による知的財産アドバイザーの派遣を受け、『甲南大学知的財産ハンドブック』、『甲南大学知的財産Q&A集』を発行するなど、知的財産管理活用体制を整備しました。また、引き続き本学研究者の研究テーマをまとめた文・社系の研究シーズ集を発行しました。

(4)科学研究費補助金新規採択率が全国で10位

文部科学省・日本学術振興会による平成19年度科学研究費補助金に本学から23件が新規に採択されました。新規採択率33.8%は、新規応募件数50件以上の大学等研究機関のなかで、全国10位にあたります。また、科学研究費補助金によって行う研究を支援することを目的とした学術研究奨励費を新たに設けました。

(5)先端生命工学研究所(FIBER)の研究活動の推進

共同研究ネットワークにおける研究成果の共有と研究シーズの発掘を目的として、「第2回学術フロンティアシンポジウム（第4回学術フロンティア会議）」を開催しました。学術フロンティア推進事業の研究成果は特に優れたものと評価され、英国王立化学会（Royal Society of Chemistry）が発表する“Chemical Biology News”やアメリカ化学会誌“Journal of the American Chemical Society”に取り上げられました。

I 事業の概要

4 学生支援活動

(1) 奨学金・表彰制度の充実

学生のより高い学習意欲を引きだすために、目的別の各種奨学金、表彰、授業料免除に加え、甲南学園90周年記念事業である建学の精神を体した「甲南90周年栄誉スカラシップ」(P.5)を創設しました。

(2) 学生生活の活性化

課外活動等の展開

学生が主体となる活動を促進させ、徳を備え活気に満ちた学生を育成・支援するため、学長表彰、学長顕彰、学生部長特別表彰、父母の会課外活動表彰(金甲賞)、同窓会課外活動表彰(会長賞・奨励賞)等の各種表彰を行いました。

甲南21クリエイティブ・プラン

学生の社会参加、地域社会への貢献活動を促すことを目的に、「甲南21クリエイティブ・プラン」として引き続き学生からの企画を募集し、優秀なアイデア7件に資金的援助を行いました。

(3) キャリア形成・進路支援体制の強化

キャリアカウンセラー資格を有するキャリアセンター職員による「職業適性テスト」、首都圏での就職活動を支援する「企業研究講座 in TOKYO」、卒業生の経営者を招いて行う「甲南スマイルストーリー」、女子学生、理工系学生のためのキャリア形成支援講座等に加え、新たに「文学部生向けキャリア支援講座」を開始しました。また、4年次生に対しては、未内定者を対象とした学内合同企業セミナーを複数回実施し、参加学生に対し自宅に求人票を郵送するなどのフォローアップを図りました。平成19年度の就職率は、97.2%と好調な結果となりました。

(4) 教員志望者への支援

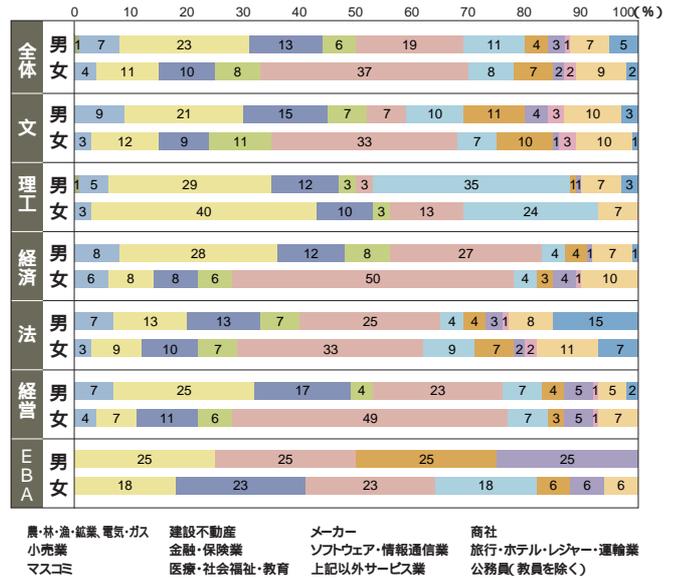
教職教育センターに「共同研究・実習室」を設置し、教員としての実践力を身につけるための補習授業、対策講座、卒業生教員による講演会等を実施するとともに、採用情報の収集と提供を積極的に行い、卒業生も含めた教員志望者への進路支援を展開し、52名が教諭(センターでの確認数、既卒・私学2名を含む)に採用されました。

(5) 父母対象の教育懇談会の実施

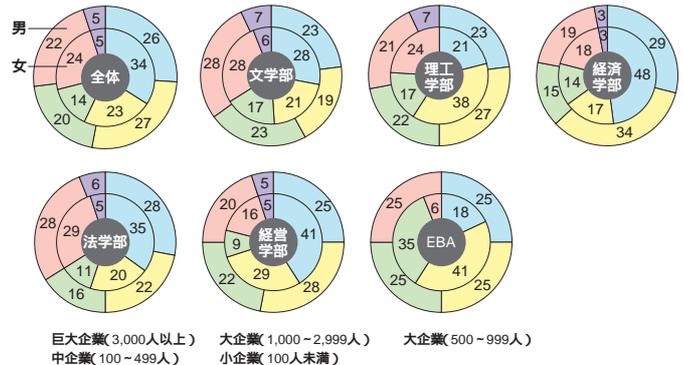
学生の父母に対し、本学の教育理念や学修・学生生活への理解と関心を深めていただくため、本学のほか、地方在住の父母を対象として、名古屋市、高松市、岡山市及び和歌山市で教育懇談会を開催しました。

就職状況

業種別就職状況(%)



規模別就職状況(%)



5 社会連携・貢献活動

(1) 地域貢献の推進

神戸市東灘区をはじめとする地域との各種連携協定に基づいたまちづくりの推進、教育・文化の振興等の事業に加え、文学部を中心とした「地域連携プロジェクト」の展開、図書館・サイバーライブラリの地域公開、スポーツ・健康科学教育研究センターによる地域住民を対象とした体力測定等に取り組みました。

また、平成19年7月、伊丹市立学校等との間において人的・知的資源の交流・活用を図り、相互に有意義と認められる諸事業を行うことによる双方の教育の充実・発展を目的に伊丹市教育委員会と連携協力に関する協定を締結しました。

地域連携プロジェクト・・・本学の教育理念と本学が立地する地域のニーズを背景として、神戸市東部・芦屋市や西宮市にまたがる阪神文化圏における「新たなコミュニティの創生」に学生、教職員がともにかかわりながら、大学が地域とコミュニケーションする教育プログラム。

(2) 高大等連携の推進

「高大連携聴講生制度」に基づき、兵庫県、神戸市及び協定を締結した高校からの生徒を指定授業に受け入れました。また、高校教員との教育交流会を行うなど重層的な取組を進めています。各学部においても、出張講義、授業体験、遠隔授業などを実施しました。

また、先端生命工学研究所では、独立行政法人科学技術振興機構(JST)に連続で採択された「SPP事業」、「理数系教員指導力向上研修」、独立行政法人日本学術振興会(JSPS)に採択された中学生を対象とする「ひらめき ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI～」を実施しました。

SPP事業・・・「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」の略。学校等と大学等が連携し、研究者等を講師とする科学技術、理科に関する観察、実験、実習等の体験的・問題解決的な活動を中心とした学習活動を行うことによって、生徒の科学技術や理科に対する興味・関心と知的探究心等を育成することを目的としている事業。

理数系教員指導力向上研修・・・教育委員会等と大学等の連携により、科学技術及び理科に関して、観察・実験等の体験的・問題解決的な活動に関する理数系教員の実践的指導力を育成・向上させることを目的としている事業。



先端生命工学研究所 SPP事業

(3) 産官学連携の推進

フロンティア研究推進機構において、引き続き、産・官と連携し、受託・共同研究や技術相談等、本学の知的財産を広く社会のために活用するための事業を推進するとともに、本学の研究をアピールするために各種展示会等に出展しました。

(4) 大学間連携の推進

「大学コンソーシアムひょうご神戸」の学生交流事業を担当し、参加大学学生による「学生音楽会」と観光・物産・イベント・社会貢献活動を通して兵庫をPRする事業計画を募集し選定する「学生プロジェクトプラン・コンペ」を実施しました。

大学コンソーシアムひょうご神戸・・・兵庫県下において、大学相互の連携を深めるとともに、地域社会・地方自治体、産業界及び県下の大学間連携組織と協力しあうことにより、大学における教育・研究活動の向上と、地域社会の振興と発展に寄与することを目的として、平成18年に設立されました。

(5) 生涯学習の支援

社会人講座、各種シンポジウム、公開講座等を通じて、生涯学習の機会を社会・地域に提供しました。

主な講演会・シンポジウム等

ビジネス・イノベーション研究所

第4回シンポジウム「IT革命と地域活性化」

第6回研究会「海外遺伝資源を活用した産学官連携について」

第7回研究会「地域別特性で解く中国ビジネス」

先端生命工学研究所(FIBER)

国際講演会「FIBER International Lectures (第7回～第9回 計3回開催)」

講演会「FIBER Lectures」(第19回～第24回 計6回開催)

シンポジウム「FIBER Forum 2007」

社会人向け連続講座「甲南Nano Bio College」

人間科学研究所

第8回公開シンポジウム

「心理療法と超越性 - 神話的時間と宗教性をめぐって」

総合研究所公開講演会

第44回「重力レンズを使って太陽系外惑星を探す」

講師:村木綏(理工学部教授)

第45回「いま働く人々の人権が危うい」

講師:熊沢誠(名誉教授)

甲南大学文化講演会

「瀬戸内海世界を船旅する」講師:出口晶子(文学部教授)

「今、若者たちに求められること～なりたい自分をプロデュースするために～」

講師:伊豫田隆俊(キャリアセンター所長・会計大学院教授)

「宇宙のはじまりと進化のふしぎ」講師:梶野文義(理工学部教授)

甲南大学コミュニティ・デザイン・センター

文学部地域連携講座「阪神文化論」

キルティングアート展「重なる記憶」

鳥尾伸三写真展「生活」、「一瞬の光」

岸本吉弘展「水平の夢」/ 関連コラボレーション企画

カウンセリングセンター・学生相談室・父母の会(共催)

公開講演会『夢と出会い』

講師:奥野史子氏(ハルセロナ五輪・シンクロナイズドスイミング・銅メダリスト)

現代講座

第142回:「セインに学ぶ異文化コミュニケーションセイン・カミュ氏(タレント)」

第143回:「命に恋して」畑正憲氏(作家)

第144回:「ドリームをあきらめない」ルー大柴氏(タレント)

公開講座

春期:「みづかな司法～国民の期待に応える司法制度とは」

夏期:「パソコン教室」～はじめてのデジタルカメラ撮影・編集とブログ作成～

秋期:「2007年問題を考える」

冬期:「バドミントン教室」

I 事業の概要

6 環境整備

(1)安全管理の強化

研究施設の安全管理

「甲南大学動物実験取扱規程」を制定し、適正な動物実験等を実施するための体制を整備するとともに、「甲南大学におけるヒトを対象とした研究に関する規程」を制定し、研究の倫理及び安全管理の適正な運用を図る体制を整備しました。また、現在は使用されていない理工学部7号館放射線発生装置使用施設を廃止しました。

講堂兼体育館の改修工事

講堂兼体育館の改修工事を行い、耐震性の向上、バリアフリー化のほか、アメニティの向上を実現しました。

正門付近の照明設備の整備

キャンパス周辺道路の夜間の安全性を高めるために正門付近の照明を増設しました。

井水の利用

阪神淡路大震災の教訓を活かし、有事の際にも水の安定供給ができるよう本校舎エリアで井水の利用を始めました。

AED(自動体外式除細動器)の設置

心臓停止に有効な救命機器である「AED」を新たに2台購入し学内9箇所に設置するとともに、課外活動用に携帯用AEDの貸出を開始し、いざという時に居合わせた者が尊い命を救うことができる体制を強化しました。

駐車場の増設

キャンパス内の歩車分離を推進するため、18号館敷地内に11台分の駐車場を増設しました。

(2)情報インフラ整備の推進

平成19年9月より、情報教育システムを全面的に更新しました。パソコンの入れ替え、Office等ソフトウェアのバージョンアップに加え、VPN接続とリモートデスクトップ環境の拡大、「Webコラボレーション」システムによるWebブラウザを使った各自の保存領域への接続を可能とし、学外からパソコン教室のソフトウェアを使った利用環境の充実を図りました。また、パソコン教室前に設置した電子掲示板によるインフォメーション、教員用Webメールのサービスを強化しました。

(3)快適・安心なキャンパス構築の推進

証明書自動発行機の更新

個人情報保護の強化、現金決済による利便性の向上を目的に発行機種の更新を図りました。

キャンパス内全面禁煙の取組の推進

平成18年度よりスタートしたキャンパス内全面禁煙を引き続き実施し、健康増進ならびに社会人としてのマナー育成のための取組を推進しました。

校舎エントランスのバリアフリー化

校舎エントランスの自動扉化を計画的に進めており、平成19年度は11号館(会計大学院棟)に自動扉を設置しました。

学生会館出合いの広場の整備

晴雨に関わらず、学生が集える空間とするために、学生会館出合いの広場に大テント、ベンチを設置しました。



キャンパスの景観整備

キャンパスの景観整備を計画的に進めており、平成19年度はグラウンド沿いに銀杏、桜の並木を整備しました。

7 学生募集・入学試験に係る各種活動

(1)六甲アイランド高校と「推薦入学制度に関する協定」を締結

平成19年11月、高大連携活動を通した両校の教育理念・教育方針についての相互理解のもと、大学の教育内容を深く理解し、入学意欲の高い生徒を高校の推薦により、一定数一定期間、大学が継続して受け入れる新たな推薦入学制度(協定校推薦制度)を設けることを目的に神戸市立六甲アイランド高等学校と「甲南大学と神戸市立六甲アイランド高等学校との推薦入学制度に関する協定」を締結しました。



神戸市立六甲アイランド高等学校との調印式

(2)入学試験の実施

一般入学試験の志願者総数は28,847名(前年比2,442名増109.2%)で、昨年に引き続き増加しました。内訳として、本学の個別入学試験志願者数は609名増の17,415名(前年比103.6%)、センター試験利用入学試験志願者数は1,833名増の11,432名(前年比119.1%)となりました。

2008年度開設の知能情報学部には、合計1,251名が志願しました。

その他の入学試験では、AO入学試験に全体で146名が志願、31名が合格、30名が入学しました。

【入学試験状況】

学部・学科		個別入試				センター利用入試				その他の入試			
		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
文学部	日本語日本文学科	832	819	148	40	440	433	59	7	28	28	28	28
	英語英米文学科	1,039	1,014	203	59	693	685	130	11	30	28	25	23
	社会学科	1,294	1,275	187	56	761	752	77	15	38	36	35	33
	人間科学科	1,129	1,104	195	65	594	581	96	7	30	30	28	28
	歴史文化学科	765	751	125	37	470	464	69	10	21	21	20	20
	小 計	5,059	4,963	858	257	2,958	2,915	431	50	147	143	136	132
理工学部	物理学科	423	403	137	30	299	295	86	3	29	28	24	24
	生物学科	399	383	141	39	310	290	96	14	10	10	10	10
	機能分子化学科	529	519	261	67	366	361	174	13	33	33	33	33
	小 計	1,351	1,305	539	136	975	946	356	30	72	71	67	67
経済学部	3,540	3,465	481	150	2,768	2,742	477	67	223	220	146	143	
法学部	2,873	2,800	568	188	2,160	2,140	387	83	145	145	137	137	
経営学部	3,804	3,724	547	235	2,001	1,974	305	40	191	188	130	105	
知能情報学部	788	773	223	75	411	403	115	12	52	52	51	49	
EBA総合コース	0	0	0	0	159	154	20	4	51	50	30	26	
合 計	17,415	17,030	3,216	1,041	11,432	11,274	2,091	286	881	869	697	659	

その他の入試とは、EBA総合コース公募制推薦入学試験、AO入学試験、スポーツ能力に優れた者の推薦入学試験、経営学部高等学校商業科推薦入学試験・理工学部高等学校工業科推薦入学試験、指定校推薦入学、系列校推薦入学(試験)、帰国子女入学試験、社会人入学試験。

大学院 [修士課程]		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
人文科学	日本語日本文学専攻	2	2	1	1
	英語英米文学専攻	4	3	2	2
	応用社会学専攻	5	4	2	1
	人間科学専攻	86	82	14	11
	小 計	97	91	19	15
自然科学	物理学専攻	19	16	15	15
	化学専攻	17	17	16	16
	生物学専攻	8	8	7	7
	情報システム工学専攻	5	5	5	3
	小 計	49	46	43	41
社会科学	経済学専攻	8	8	5	5
	経営学専攻	9	8	8	7
	小 計	17	16	13	12
合 計	163	153	75	68	

修士課程：一般入学試験、社会人入学試験、AO入学試験、外国人留学生入学試験、学内推薦入学試験、学内選考入学試験

大学院 [博士後期課程]		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
人文科学	日本語日本文学専攻	2	2	0	0
	英語英米文学専攻	0	0	0	0
	応用社会学専攻	0	0	0	0
	人間科学専攻	9	9	6	5
	小 計	11	11	6	5
自然科学	物理学専攻	0	0	0	0
	生命・機能科学専攻	1	1	1	1
	情報システム工学専攻	0	0	0	0
	小 計	1	1	1	1
社会科学	経営学専攻	3	3	2	2
合 計	15	15	9	8	

博士後期課程：一般入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験

大学院 [専門職課程]		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
法科大学院 (法学研究科法務専攻)	469	421	178	68	
会計大学院 (ビジネス研究科会計専攻)	52	48	45	38	
合 計	521	469	223	106	

会計大学院：一般入学試験、AO入学試験、公募制推薦入学試験、指定校推薦入学試験、学内推薦入学試験

高等学校・中学校

1 教育

(1) 中高6年間一貫教育システム (2-2-2、基礎・応用・発展)の構築

甲南大学、そして世界の大学を目指す中高6年間一貫教育システムの充実を図りました。

スピーチコンテスト、オーラルコミュニケーションや自由英作文の授業のみならず、ホームルームなどでも、人間力・対話力の充実を図る言語リテラシーの養成を強化しました。

早い段階から進路目標を明確にするため、キャリア・ビジョンの養成の一環として、中学校3年においてOBワークショップを実施しました。基礎・基本学力向上のための学習・生活習慣を身に付けることを目標に、ベーシック・コースにおいて、オリエンテーション合宿やスタディー・ダイアリーを実施するとともに、メールマガジンを活用した各家庭との連携を図りました。

(2) 甲南一貫教育の実現

平生精神をバックボーンとする甲南一貫教育を実現するために引き続き次の事業を実施しました。

OBワークショップ、講演会や学習センターでのOBの指導、クラブ活動・ボランティア活動等により、世代や学年を超えた豊かな人脈を通じた人間形成に取り組みました。

甲南大学理工学部・法学部に加え、会計大学院などの出張講座やe-Learningによる講座も実施し、高大連携教育を推進しました。

甲南小学校との連携を強化、また甲南女子中学校・高等学校とも連携して、三学園学習成果発表会や、異年齢・異性との共生を考える農作業体験などによる三学園環境教育を実施しました。

多様な能力を有する生徒を、入試制度の改革により積極的に受け入れました。

入学前に平生三郎伝記の読書感想文作成を課題とし、また、授業では平生講座の実施や学校行事での平生精神の喚起を行うなど、学園創立者平生三郎の魅力や建学の精神の意義について認識を深めました。



各メディアで取り上げられた神戸地方裁判所の裁判官(判事)と事務官による高校2年生の出張授業(平成20年2月)

(3) 伝統に根ざすイノベーションを実現する体制作り

甲南学園の一貫教育を担う一環として、甲南高等学校・中学校の教育目的を達成するために、理事長の諮問機関として設置されたアドバイザリ・コミティから、甲南高等学校・中学校の教育に関する助言等を得て、中高6年間一貫教育システムの更なる発展を目指しています。

また、教員組織活性化のために、各種研修の受講や授業公開などの研修制度を充実し、公募による教員採用を実施しました。

2 学習・学校生活支援活動

(1) 甲南90周年オナーズカラシッパ

既存の給付制奨学金に加え、甲南学園創立90周年記念事業である「人物教育率先」創立者平生三郎記念教育振興事業(P.5)として、2年連続で全国制覇したテニス部など、学修、スポーツ、文化・芸術、国際交流、社会貢献活動の各分野において、顕著な成果を収めた団体(テニス部・アーチェリー部・馬術部・ブラスアンサンブル部・文芸部・ラグビー部・クラシック同好会)を表彰し、甲南90周年オナーズカラシッパ平生拾芳奨励金を給付しました。

(2) 奨励金制度の実施

各学年約10名の学力優秀者に対して奨学金を供し、学習意欲の向上を図りました。

(3) 学習センターの利用促進

学習習慣の確立と自主的学習の促進を図るため、専任教員の指導のもとに、甲南大学の協力による教職を目指すOBのチューターを配置し、教科指導や学習方法の相談を放課後に行いました。延べ約1,000人を超える受講生がありました。

(4) 国際交流の推進

海外協定校(4カ国5校)と長期交換留学(受入れ1名・派遣5名)や短期語学研修を実施しました。

グレゴリー・テラス校(オーストラリア)とは、平成19年4月にラグビー部・サッカー部50名が来日、交流試合・合同練習を行い、7月には本校ラグビー部40名が遠征、クラブ間交流を実施しました。さらに、9月には20名が短期研修で来日、約2週間本校生徒宅でホームステイして授業を受け、活発な交流が行われました。



グレゴリー・テラス校ラグビー部、サッカー部来日交流試合

法人

3 環境整備

(1) 総合的防犯対策の実施

安全・安心な環境整備を図るために、各教室への侵入等緊急事態発生時に対応する通報システム、構内への出入管理・侵入監視装置を設置し、夜間や休日は警備会社とも連携を図り、総合的な防犯対策をしました。

(2) 電話設備の更新

快適・安心な環境の整備と通信コストの削減を図るために、IP電話網を利用したコードレス電話機、ボイスメールの導入等、迅速で確実なコミュニケーションを可能とする電話設備に更新しました。

4 進路状況

一人ひとりの適性や個性に応じ、現在は普通コース文・、理数コースの3コース制により、将来に向けた自己の確立を目指しています。平成19年度卒業生の進路は、約2/3の生徒が推薦制度により甲南大学、約1/3が京都大学や大阪大学をはじめとした国公立大学、関西や首都圏の医学部・歯学部・薬学部等を含む私立大学に進学しました。

5 生徒募集・入学試験に係る活動

中学校入学試験は、中高一貫教育としての新たなカリキュラム導入や1クラス35名の少人数クラス編成などの学校改革と入試制度改革により、志願者は対一昨年度比で51.6%、対昨年度比で14.9%増加、競争率は期入試a方式2.7倍、期入試3.6倍、期入試では6.9倍となりました。

高等学校

		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
普通コース	特別推薦	13	12	12	12	1.0
	一般推薦	47	47	36	24	1.3
小計		60	59	48	36	-
理数コース		19	19	14	14	1.4
合計		79	78	62	50	-

備考：普通コース一般推薦合格者数は、理数コース併願合格者12名を含む

中学校

		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
期入試	a方式	278	262	97	92	2.7
	b方式	13	12	12	12	1.0
小計		291	274	109	104	-
期入試		479	339	94	40	3.6
帰国(上記を含む)		(1)	(1)	(0)	(0)	
期入試		285	138	20	16	6.9
帰国(上記を含む)		(1)	(1)	(1)	(1)	
甲南小学校		31	31	31	31	-
合計		1,086	782	254	191	-

備考：1. 期入試欠席140名のうち、期入試合格者102名

2. 期入試欠席147名のうち、期入試合格者68名・期入試合格者32名

1 管理運営・財政

(1) 理事・評議員定数見直しに伴う寄附行為の変更

学園運営上の観点から、学部長、法学研究科長及びビジネス研究科長の役職上の理事・評議員定数を見直し、定数7名の現状維持と学部長、法学研究科長及びビジネス研究科長(計8名)からの選任は理事会が行うことを内容とする寄附行為変更認可申請を行い、認可されました。

(2) フランス甲南学園トゥレーヌの新会計システムの構築

フランス甲南学園トゥレーヌのフランス会計基準の適用と迅速・透明性を高めるために、新会計システムを構築しました。

(3) 学生支援及び情報セキュリティ研修の実施

学生相談室と合同で学生の心理的危機への対応と予防をテーマにした学生支援のための教職員研修会と情報セキュリティに関する理解と注意喚起を目的としたセキュリティ研修を実施しました。

2 卒業生との連携

(1) 卒業生との連携強化

甲南ファミリーが交流を深める「オール甲南の集い」を実施し、神田紫氏(女流講師)による環境講談、卒業生と現役生によるジョイントコンサート「オール甲南夢舞台」、卒業生が経営する企業や商店の物産を販売する物産展を催し、子供たち400名を含む約2,000人の参加がありました。



(2) 文化勲章受章卒業生へのお祝い広告掲載

中西香爾氏(旧制甲南高校理科 昭和19年卒)と岡田節人氏(旧制甲南高校理科 昭和22年卒)が文化勲章を受章され、平成19年度5名の受章者のうち、旧制甲南高校卒業生で2名を占めるという学園としても優れて名誉あるかたちとなり、11月3日の親授式に合わせて、新聞紙面にお祝いの広告を掲載しました。

Ⅱ 財務の概要

平成19年度決算の概要

中期経営計画2年目にあたる平成19年度は、「教育機関としての経営資源再配分」を主軸の課題に掲げ、平生精神のもと培ってきた「人物教育率先」の伝統を活性化させることを基軸として、これまでの取り組みとともに、中期経営計画に掲げる主要事業（新学部設置に伴う西宮新キャンパス、ポートアイランド新キャンパスの建設及び先端生命工学研究所の移設、理工学部の再編、学園創立90周年記念募金事業）をはじめ、「事業の概要」に掲げた様々な事業を実施してまいりました。

以下に、平成19年度決算の概要をご報告いたします。

平成19年度決算は、予算編成方針に掲げた目標値である 帰属収入（資産運用収入を除く）にしめる経常支出の割合（引当特定資産活用事業を除く）は83%以下を目標とする、帰属収入にしめる消費支出額全体の適正レベル（喫水線）は95%以下を目標とする、帰属収入（資産運用収入を除く）にしめる人件費支出額の割合（引当特定資産活用事業を除く）は50%以下を目標とする、をいずれも達成することができました。

また、中期経営計画事業の実施等に伴い、総額50億67百万円の基本金組入れを実施しました。主要な内容は次のとおりです。

平成21年度開設予定のマネジメント創造学部、フロンティアサイエンス学部・同大学院棟の建設資金及び先端生命工学研究所の移設資金

学園創立90周年記念事業である六甲アイランド体育施設整備及び高等学校・中学校新体育館建設資金

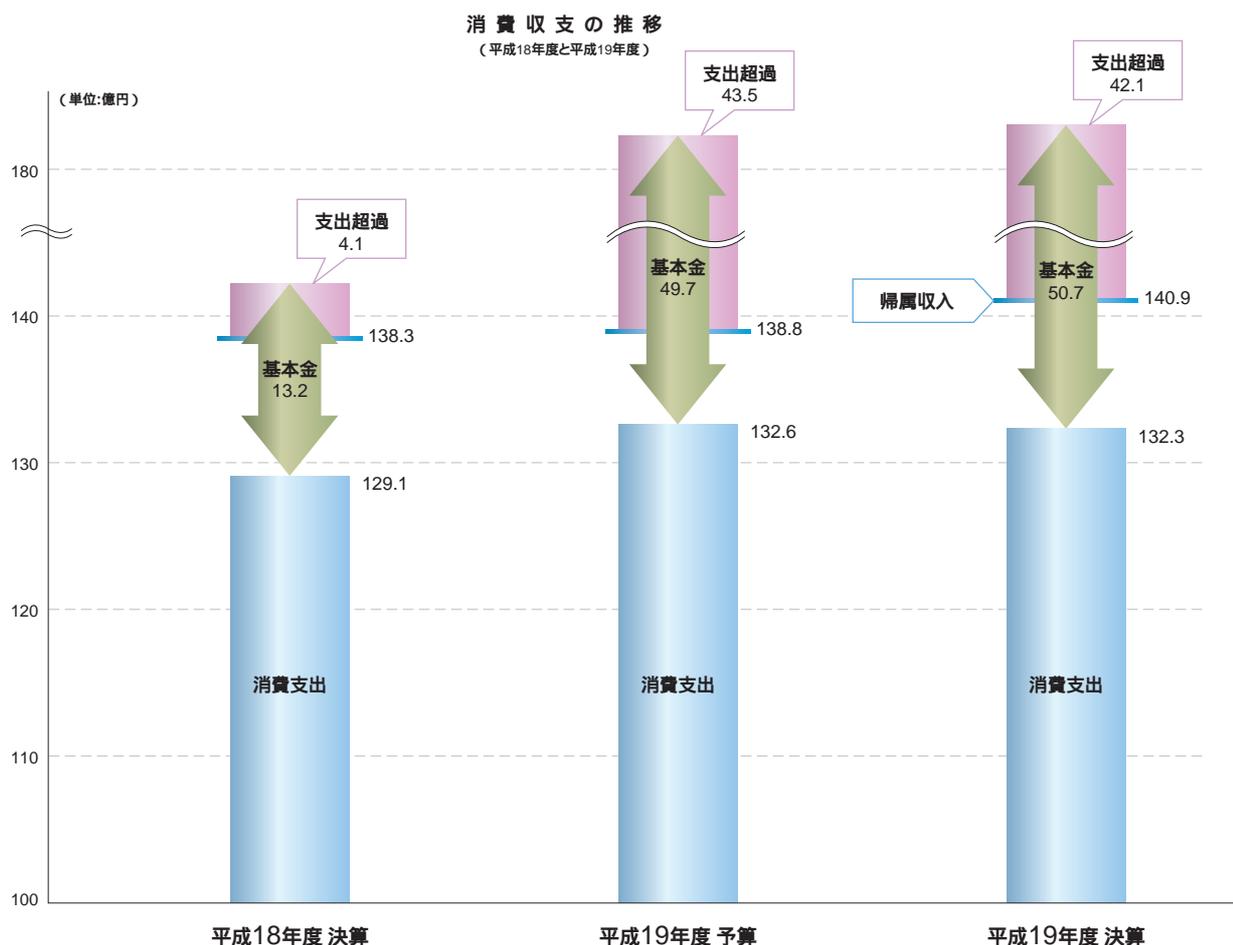
（参考）プロジェクト別基本金組入れ内訳 （単位：千円）

	西宮キャンパス (CUBE西宮)	ポートアイランド キャンパス (FAMEポアアイ)	その他	合計
第1号基本金	2,243,633	2,028,367	1,123,143	5,395,143
第2号基本金	1,000,000	2,000,000	460,000	3,460,000
第3号基本金	1,844,836	2,000,000		3,844,836
第3号基本金			57,043	57,043
合計	1,398,797	2,028,367	1,640,186	5,067,350

資金収支全体概要

資金収入は学生生徒等納付金収入、手数料収入他、303億96百万円（資金調整勘定を除く）資金支出は人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出他、287億66百万円となりました。資金調整勘定を含めた結果、次年度繰越支払資金は84億79百万円となりました。

平成18年度決算・平成19年度予算及び決算の比較



資金収支計算書(学園総括) 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	10,764,702	10,758,519	6,183	人件費支出	7,347,317	7,433,237	85,920
手数料収入	693,000	797,526	104,526	教育研究経費支出	3,382,803	3,111,054	271,749
寄付金収入	328,136	324,699	3,437	管理経費支出	865,759	879,371	13,612
補助金収入	1,360,159	1,362,980	2,821	借入金等利息支出	36,656	36,656	0
資産運用収入	402,812	402,849	37	借入金等返済支出	405,000	405,000	0
事業収入	93,739	108,495	14,756	施設関係支出	4,990,225	4,948,981	41,244
雑収入	236,048	306,991	70,943	設備関係支出	245,284	250,690	5,406
前受金収入	1,987,956	1,931,329	56,627	資産運用支出	8,921,471	10,418,295	1,496,824
その他の収入	13,911,393	14,402,879	491,486	その他の支出	1,190,029	1,282,498	92,469
					(334,346)		
				予備費	65,654		65,654
計	29,777,945	30,396,267	618,322	計	27,450,198	28,765,782	1,315,584
資金調整	1,988,673	2,289,474	300,801	資金調整	53,480	484,709	431,229
前年度繰越支払資金	8,653,623	8,653,623		次年度繰越支払資金	9,046,177	8,479,343	566,834
収入の部合計	36,442,895	36,760,416	317,521	支出の部合計	36,442,895	36,760,416	317,521

注記 予備費からの振替 人件費支出 2,960 施設関係支出 17,957
 教育研究経費支出 215,295 設備関係支出 39,064
 管理経費支出 59,070 計 334,346

消費収支計算書(学園総括) 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	10,764,702	10,758,519	6,183	人件費	7,355,180	7,399,522	44,342
手数料	693,000	797,526	104,526	教育研究経費	4,852,329	4,599,563	252,766
寄付金	328,136	348,636	20,500	管理経費	892,753	908,215	15,462
補助金	1,360,159	1,362,980	2,821	借入金等利息	36,656	36,656	0
資産運用収入	402,812	402,504	308	資産処分差額	0	57,873	57,873
事業収入	93,739	108,495	14,756	徴収不能引当金繰入額	0	224,731	224,731
雑収入	236,048	306,991	70,943				
帰属収入合計	13,878,596	14,085,651	207,055		(277,325)		
基本金組入額合計	4,972,245	5,067,350	95,105	予備費	122,675		122,675
消費収入の部合計	8,906,351	9,018,301	111,950	消費支出の部合計	13,259,593	13,226,560	33,033
				当年度消費収入超過額	4,353,242	4,208,259	
				前年度繰越消費収入超過額	4,998,656	4,998,656	
				翌年度繰越消費収入超過額	645,414	790,397	

注記 予備費からの振替 人件費 2,960 管理経費 59,070
 教育研究経費 215,295 計 277,325

Ⅱ 財務の概要

消費収支決算(部門別内訳)・構成比率

全体概要

学園全体の帰属収入は140億86百万円、基本金組入額は50億67百万円。帰属収入から基本金組入額を除いた消費収入は90億18百万円。一方、消費支出は132億26百万円となり、その結果、消費収支差額は42億8百万円の支出超過となりました。これは、新学部開設準備資金として多額の基本金組入れを行ったことによります。

予算対比でみますと、帰属収入は手数料、雑収入、寄付金、事業収入等が増加したことに伴い、2億7百万円の増収(予算138億79百万円に対して決算は140億86百万円)となり、基本金組入額は95百万円の増加(予算49億72百万円に対して決算は50億67百万円)となりました。一方、消費支出は、教育研究経費が2億53百万円減少したことに伴い、33百万円の減少(予算132億59百万円に対して決算は132億26百万円)となり、その結果、消費支出超過額は予算より1億44百万円減少し、42億8百万円となりました。

他方、前年度決算と比較しますと、帰属収入は寄付金、資産運用収入、手数料等が増加したことに伴い、2億58百万円の増収(前年度の帰属収入は138億28百万円)。基本金組入額は新キャンパス建設資金等を組入れたため、37億46百万円増加(前年度の組入額13億21百万円)しました。一方、消費支出は教育研究経費、及び新学部設置準備に伴う管理経費の増加等に伴い、3億11百万円の支出増(前年度の消費支出は129億15百万円)となりました。その結果、消費収支差額は38億00百万円の消費支出超過となりました。

右表の構成比率は、帰属収入を100とした場合の当該科目の比率となっております。

大学・法人・中高の部(学園全体)

(単位:千円、%)

	科 目	金 額	構 成 比 率
消費収入	学生生徒等納付金	10,758,519	76.3%
	手数料	797,526	5.7%
	寄付金	348,636	2.5%
	補助金	1,362,980	9.6%
	資産運用収入	402,504	2.9%
	事業収入	108,495	0.8%
	雑収入	306,991	2.2%
	帰属収入合計	14,085,651	100.0%
	基本金組入額()	5,067,350	36.0%
	消費収入合計	9,018,301	64.0%
消費支出	人件費	7,399,522	52.5%
	教育研究経費	4,599,563	32.7%
	管理経費	908,215	6.4%
	借入金等利息	36,656	0.3%
	資産処分差額	57,873	0.4%
	徴収不能引当金繰入額	224,731	1.6%
	消費支出合計	13,226,560	93.9%
		消費収支差額	4,208,259

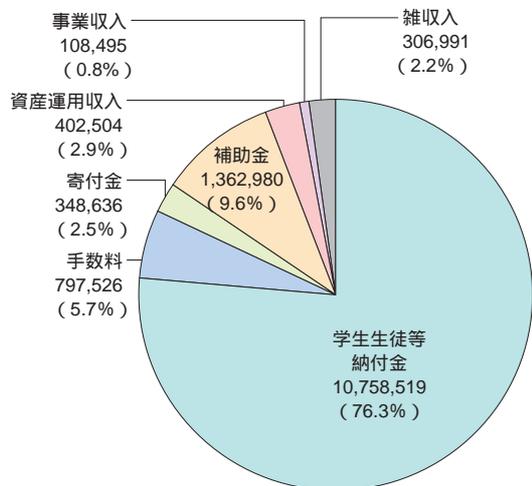
(参考)

引当特定資産活用事業を除いた場合の金額及び構成比率

人件費 6,602,046千円(48.3%) 消費支出合計 11,095,859千円(81.1%)

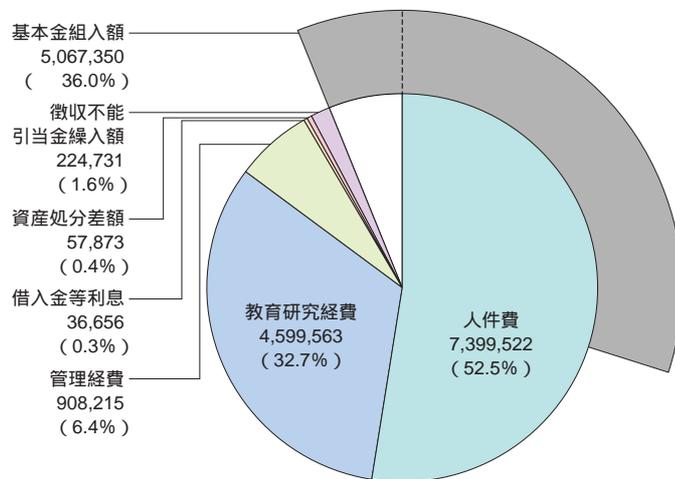
- (注) 学生生徒等納付金.....授業料・入学金・施設設備費・施設維持費・教育充実費・実験実習料等
 手数料.....入学検定料・証明書手数料等
 寄付金.....学園創立90周年記念事業募金、教育振興募金等
 補助金.....経常費補助金・研究装置、設備、施設整備費等補助金等
 資産運用収入.....受取利息配当金・施設設備利用料収入等
 事業収入.....受託事業収入・収益事業収入等
 基本金組入額.....校地・校舎・機器備品・図書等教育研究の充実・拡充のために取得した固定資産のうち、帰属収入をもって充当した額および教育研究基金等への組入額

(単位:千円、%)



収入科目構成比率(学園)

(単位:千円、%)



支出科目構成比率(学園)

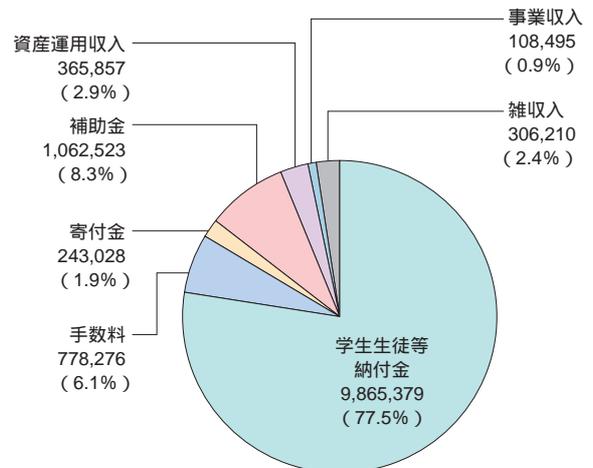
(単位:千円、%)

消費収支決算(部門別内訳)・構成比率

大学・法人

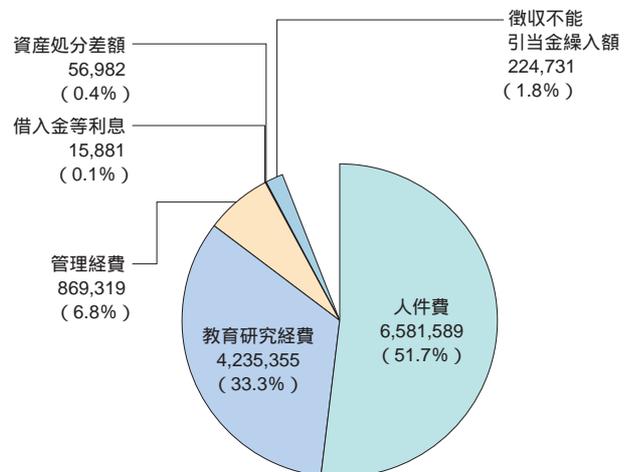
(単位:千円、%)

	科 目	金 額	構 成 比 率
消費収入	学生生徒等納付金	9,865,379	77.5%
	手数料	778,276	6.1%
	寄付金	243,028	1.9%
	補助金	1,062,523	8.3%
	資産運用収入	365,857	2.9%
	事業収入	108,495	0.9%
	雑収入	306,210	2.4%
	帰属収入合計	12,729,768	100.0%
	基本金組入額()	4,774,179	37.5%
	消費収入合計	7,955,589	62.5%
消費支出	人件費	6,581,589	51.7%
	教育研究経費	4,235,355	33.3%
	管理経費	869,319	6.8%
	借入金等利息	15,881	0.1%
	資産処分差額	56,982	0.4%
	徴収不能引当金繰入額	224,731	1.8%
	消費支出合計	11,983,857	94.1%
消費収支差額	4,028,268		



収入科目構成比率(大学・法人)

(単位:千円、%)



支出科目構成比率(大学・法人)

《用語の説明》

資金収支

1年間の教育研究活動に伴う資金の収入と資金の支出を明らかにし、支払資金の期末を表わすものです。

消費収支

企業会計の損益計算の仕組みを引用し、消費収入(収益)と消費支出(費用)の内容と均衡の状態を明らかにしようとするものです。

帰属収入

資金収支計算の収入の部「学生生徒等納付金収入」、「手数料収入」、「寄付金収入」、「補助金収入」、「資産運用収入」、「事業収入」、「雑収入」に現物寄付を加えたものです。

基本金組入額

基本金は学校法人が教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な校地・校舎、機械器具、図書等を取得した金額(第1号基本金)、校地、校舎等を取得するために年次的、段階的に積み立てる資金(第2号基本金)、さらには教育・研究を維持充実するための積立(第3号基本金)及び恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣の定める額の確保のために帰属収入からあてられる金額(第4号基本金)です。

消費収入

帰属収入から基本金組入額を差し引いた残りの収入で消費支出にあてられるものです。

消費支出

資金収支計算書の支出の部の「人件費支出(退職金支出を除き、退職給与引当金繰入額を加える)」、「教育研究経費支出・管理経費支出(減価償却額を加える)」、「借入金等利息支出」に消費支出のみの項目である「資産処分差額」、「徴収不能引当金繰入額」を加えたものです。

消費収支差額

消費収入と消費支出との差です。

Ⅱ 財務の概要

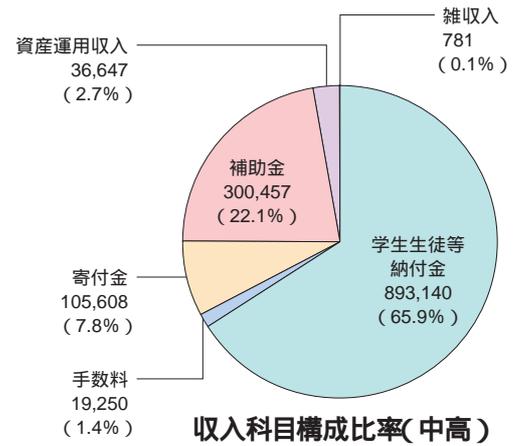
消費収支決算(部門別内訳)・構成比率

中高の部

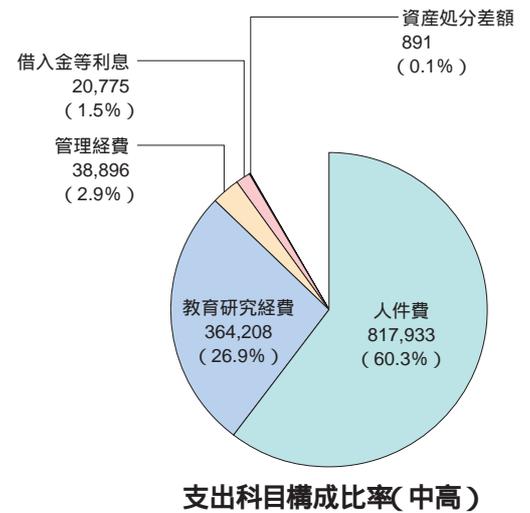
(単位:千円、%)

	科 目	金 額	構 成 比 率
消 費 収 入	学生生徒等納付金	893,140	65.9%
	手 数 料	19,250	1.4%
	寄 付 金	105,608	7.8%
	補 助 金	300,457	22.1%
	資 産 運 用 収 入	36,647	2.7%
	雑 収 入	781	0.1%
	帰 属 収 入 合 計	1,355,883	100.0%
	基本金組入額()	293,171	21.6%
	消 費 収 入 合 計	1,062,712	78.4%
消 費 支 出	人 件 費	817,933	60.3%
	教 育 研 究 経 費	364,208	26.9%
	管 理 経 費	38,896	2.9%
	借 入 金 等 利 息	20,775	1.5%
	資 産 処 分 差 額	891	0.1%
	消 費 支 出 合 計	1,242,703	91.7%
	消 費 収 支 差 額	179,991	

(単位:千円、%)



(単位:千円、%)



Ⅱ 財務の概要

消費収支決算の推移(学園総括) 平成14年度から平成19年度まで

(単位:千円)

部門	項目	年度別					
		平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
学園 総 括	帰属収入	14,159,541	14,074,357	14,140,896	14,237,329	13,827,842	14,085,651
	基本金組入額	1,626,978	1,693,787	1,864,222	1,933,977	1,320,593	5,067,350
	消費収入	12,532,563	12,380,570	12,276,674	12,303,352	12,507,249	9,018,301
	消費支出	12,949,468	12,676,396	12,618,774	13,238,071	12,914,940	13,226,560
	消費収支超過額	416,905	295,826	342,100	934,719	407,691	4,208,259
	基本金取崩額	-	-	-	-	33,767	-
	消費収支超過額 累計	6,945,225	6,649,399	6,307,299	5,372,580	4,998,656	790,397
	帰属収支差額	1,210,073	1,397,961	1,522,122	999,258	912,902	859,091
	消費収支超過額 累計	49.0%	47.2%	44.6%	37.7%	36.1%	5.6%
	帰属収入						

財務状況の推移(学園総括) 平成14年度から平成19年度まで

(単位:千円)

部門	項目	年度別					
		平成14年度末	平成15年度末	平成16年度末	平成17年度末	平成18年度末	平成19年度末
学園 総 括	総資産	85,344,117	86,708,871	87,817,488	88,484,703	89,275,896	89,275,723
	固定資産	77,844,080	78,352,332	79,192,230	79,878,718	80,178,364	80,438,157
	有形固定資産	52,929,478	53,378,956	54,218,178	53,870,115	53,494,751	57,150,999
	その他の固定資産	24,914,602	24,973,376	24,974,052	26,008,603	26,683,613	23,287,158
	流動資産	7,500,037	8,356,539	8,625,258	8,605,985	9,097,532	8,837,566
	総負債	10,717,662	10,684,455	10,270,950	9,938,907	9,817,198	8,957,934
	固定負債	7,905,850	7,459,524	7,192,913	6,883,481	6,759,481	6,340,766
	流動負債	2,811,812	3,224,931	3,078,037	3,055,426	3,057,717	2,617,168
	基本金	67,681,230	69,375,017	71,239,239	73,173,216	74,460,042	79,527,392
	消費収支差額	6,945,225	6,649,399	6,307,299	5,372,580	4,998,656	790,397
	正味財産	74,626,455	76,024,416	77,546,538	78,545,796	79,458,698	80,317,789

財務比率の推移(学園総括) 平成14年度から平成19年度まで

(単位:%)

	比率	算式(×100)	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
貸借対照表関係	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	91.2 (84.6)	90.3 (85.2)	90.1 (85.8)	90.2 (86.3)	89.8 (86.3)	90.1
	自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	87.4 (83.4)	87.7 (84.2)	88.3 (84.5)	88.8 (85.0)	89.0 (85.6)	89.9
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	104.3 (101.5)	103.1 (101.1)	102.1 (101.6)	101.7 (101.5)	100.9 (100.7)	100.1
	固定長期適合比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金} + \text{固定負債}}$	94.3 (90.9)	93.9 (90.9)	93.4 (91.7)	93.5 (92.3)	93.0 (92.0)	92.8
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	266.7 (221.5)	259.1 (233.4)	280.2 (221.6)	281.7 (211.9)	297.5 (218.8)	337.6
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	12.5 (16.6)	12.3 (15.8)	11.6 (15.5)	11.2 (15.0)	11.0 (14.3)	10.0
	退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定預金(資産)}}{\text{退職給与引当金}}$	52.3 (66.7)	52.4 (68.1)	50.0 (70.5)	51.9 (70.4)	50.4 (71.7)	50.0
償却引当預金率	$\frac{\text{償却引当特定預金(資産)}}{\text{償却引当金}}$	44.4 (14.8)	42.9 (14.4)	43.5 (16.6)	44.6 (17.1)	46.7 (17.7)	34.8	
消費収支関係	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	78.1 (75.0)	76.3 (74.2)	75.2 (73.9)	76.9 (72.0)	77.6 (72.6)	76.3
	寄付金率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	1.3 (2.8)	1.1 (2.2)	1.1 (2.4)	0.9 (4.4)	1.2 (1.9)	2.4
	補助比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	8.7 (11.0)	9.4 (11.2)	13.2 (11.0)	10.8 (11.1)	9.8 (11.1)	9.6
	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	52.9 (48.9)	50.4 (49.2)	49.8 (49.7)	51.1 (48.5)	54.1 (49.0)	52.5
	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	67.7 (65.3)	66.1 (66.2)	66.2 (67.3)	66.5 (67.4)	69.7 (67.5)	68.7
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	30.7 (28.6)	32.5 (29.2)	33.3 (30.4)	33.0 (30.5)	32.8 (31.5)	32.6
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	5.6 (6.4)	5.4 (6.7)	4.5 (7.0)	4.6 (6.9)	4.6 (6.9)	6.4
	消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	91.5 (86.6)	90.1 (87.2)	89.2 (88.7)	93.0 (87.6)	93.4 (89.2)	93.9
	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	11.5 (17.3)	12.0 (17.8)	13.1 (14.9)	13.6 (16.2)	9.6 (15.4)	35.9

(注) 総資金 = 負債 + 基本金 + 消費収支差額
自己資金 = 基本金 + 消費収支差額

()内は全国理工他複数学部法人平均
小数第2位以下切り捨て

Ⅲ 法人の概要

名称	学校法人甲南学園		
法人設立の年月日	大正7年 1918 年12月20日		
設置学校	甲南大学	〒658-8501	神戸市東灘区岡本8-9-1
	甲南高等学校・中学校	〒659-0096	芦屋市山手町31-3

役員(平成20年3月31日現在)

理事¹

定数20～30名以内
現員30名

理事長	吉沢 英成
副理事長	片岡 睦夫
学長	杉村 芳美
校長	橋口 誠
副学長	青山 義孝
学外理事	吉川 精一
	片山 勉
	菊池 嘉人
	高嶋 良平
	藤尾 益也
	山田 純嗣
	市川 典男
	伊藤 勲
	乾 英文
	岸 勘治
	久後 行平
	武田 國男
	野澤 太一郎
	平生 甲一
	松下 正幸
	吉本 晴之

学内理事	
文学部長	小谷 博泰
理工学部長	安藤 弘明
経済学部長	稲田 義久
法学部長	中井 伊都子
経営学部長	西村 順二
法学研究科長	渡辺 顕修
ビジネス研究科長	河崎 照行
経済学部教授	岩崎 晃
経済学部教授	佐藤 治正

監事²

定数2～3名以内
現員3名

植村 武雄
北村 真
中西 秀夫

評議員³

定数42～61名以内
現員61名

藍原 正宜
阿久澤 亮
佐藤 治正
都染 直也
土山 敏夫
西田 脩
狭間 宏明
林 正樹
溝上 博之

美馬 幸治
山内 守明
山西 商平
岩田 憲明
梅村 昌生
長田 正道
片岡 睦夫
片山 勉
京谷 光雄
佐藤 祐康
酢谷 周爾
曾根 英夫
高嶋 良平
立野 純三
西 桂二郎
藤守 皓雄
細谷 俊雄
松谷 齊泰
青山 義孝
市川 典男
岩崎 晃
岸 勘治
久後 行平
杉村 芳美
橋口 誠
小谷 博泰
安藤 弘明

稲田 義久
中井 伊都子
西村 順二
渡辺 顕修
河崎 照行
黄 朝陽
道満 善弘
富永 健嗣
舟元 章
吉田 昇生
薦 昌樹
中濱 みどり
岩崎 邦彦
上島 一泰
加藤 隆久
菊池 嘉人
西原 健治
藤尾 益也
藤本 真人
松井 佐一郎
松田 博志
村津 敬介
山田 篤彦
山田 純嗣
吉沢 英成

1学校法人の決議機関は理事会であり、私立学校法は「学校法人に理事をもって組織する理事会を置く。」「理事会は学校法人の業務を決議し、理事の職務の執行を監督する。」としています。理事は理事会に参画し、学校法人の業務を決めていきます。

2監事は、理事と同じように学校法人の役員となっています。監事は監査機関であって、学校法人の業務、学校法人の財産の状況を監査することが主たる任務とされています。そのほか、監査報告書の作成、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べることその職務とされています。監事は、評議員の同意を得て理事長が選任し、監事は、監査の公正を保つために、理事、評議員又は学校法人の職員と兼ねてはならないこととされています。

3評議員会は、学校法人の重要事項について、理事長から意見を求められ、理事長に対して意見を述べる諮問機関としての役割があります。予算の決定、基本財産の処分、寄附行為の変更等の重要案件については、理事長はあらかじめ評議員から意見を聞かなければならないこととされています。

土地と建物(平成19年5月1日現在)

土地面積

大学	261,570.77㎡
高等学校・中学校	45,791.00㎡
フランス甲南学園・カレッジ・高等部・中等部	12,090.00㎡
その他(職員住宅地等)	7,407.77㎡
土地面積総合計	326,859.54㎡

建物面積

大学	117,392.27㎡
高等学校・中学校	17,846.01㎡
フランス甲南学園・カレッジ・高等部・中等部	6,315.84㎡
その他(職員住宅等)	1,624.75㎡
建物面積総合計	143,178.87㎡

専任教職員数(平成19年5月1日現在)

大学・大学院・センター・研究所

	文 学 部	理 工 学 部	経 済 学 部	法 学 部	経 営 学 部	スポーツ・健康科学 教育研究センター	国際言語文化 センター	EBA 研究 高等 教育 所	情報 研究 センター 教育	国際 交流 センター	教職 教育 センター	先端 生命 工学 研究所	法 科 大 学 院	会 計 大 学 院	合 計
教 授	42	37	19	14	21	3	5	3	1	0	2	0	26	12	185
准 教 授	10	16	5	8	3	3	7	0	1	0	0	0	0	1	54
講 師	1	5	0	2	1	1	5	4	0	1	0	3	0	0	23
合 計	53	58	24	24	25	7	17	7	2	1	2	3	26	13	262

実務家教員を含む。

高等学校・中学校

教 諭	契約教員	養護教諭	司書教諭	合 計
51	3	1	1	56

職員

専 任	嘱 託	合 計
151	23	174

学生・生徒数(平成19年5月1日現在)

大学

学 部	入学定員	編入定員	収容定員	実 員
文 学 部	400	10	1,620	2,002
理 工 学 部	335	-	1,340	1,635
経 済 学 部	350	-	1,400	1,719
法 学 部	350	-	1,400	1,817
経 営 学 部	345	-	1,380	1,653
EBA総合コース	-	-	-	135
合 計	1,780	10	7,140	8,961

理学部在籍者は理工学部に計上しています。

高等学校・中学校

学 校	入学定員	定 員	実 員
高 等 学 校	215	645	645
中 学 校	175	525	539

大学院

研 究 科	課 程	入学定員	収容定員	実 員	課 程	入学定員	収容定員	実 員
人文科学研究科	修士	26	52	51	博士	10	30	27
自然科学研究科	修士	35	70	86	博士	8	24	15
社会科学研究科	修士	20	40	19	博士	3	9	3
合 計		81	162	156		21	63	45

専門職大学院

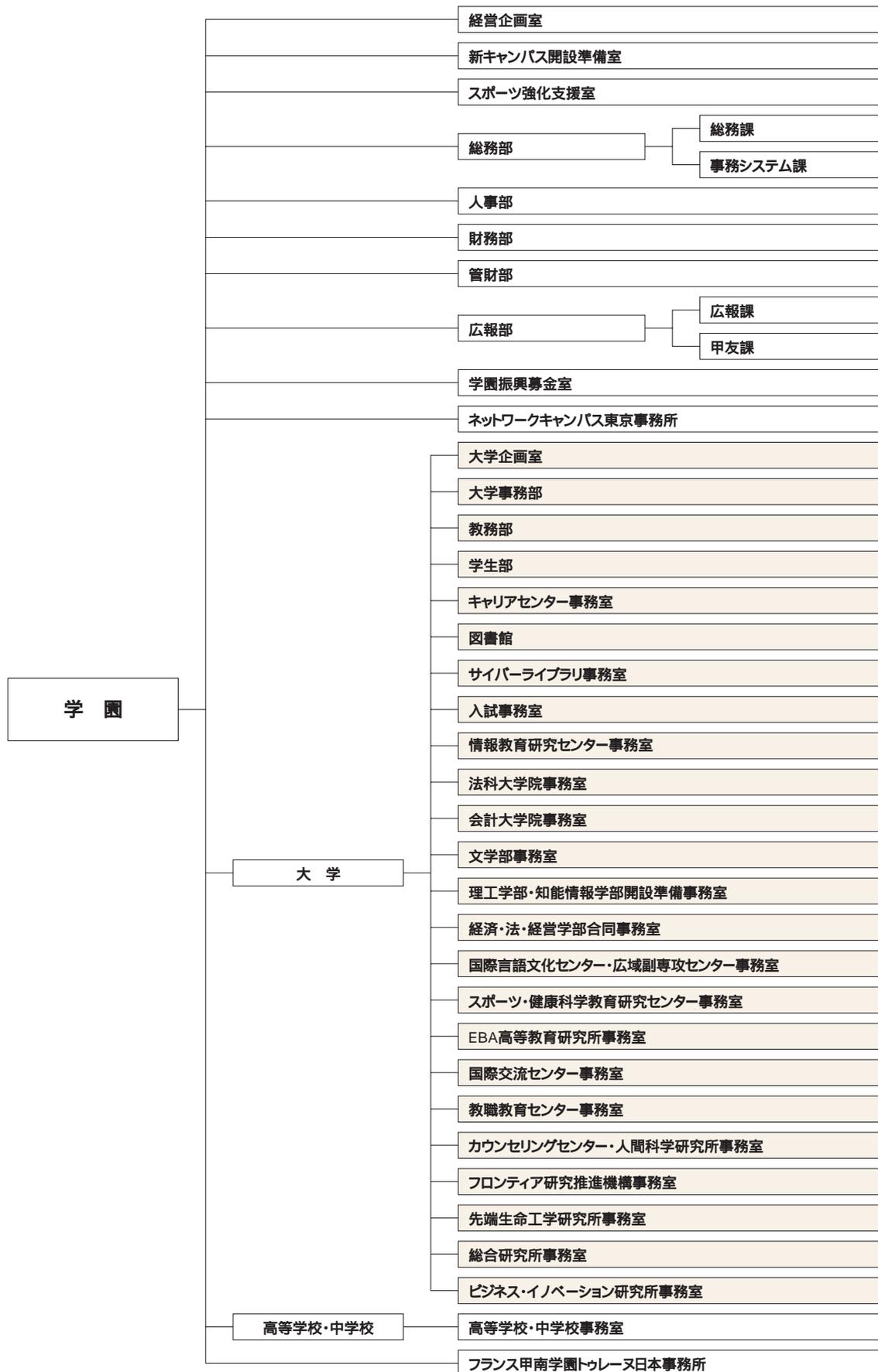
研 究 科	課 程	入学定員	収容定員	実 員	課 程	入学定員	収容定員	実 員
法 学 研 究 科	-	-	-	-	法務博士	60	180	200
ビジネス研究科	会計修士	30	60	54	-	-	-	-
合 計		30	60	54		60	180	200

卒業生累計数(平成20年3月31日現在)

7年制高等学校	871
新制高等学校	10,153

学 部	82,208
大学院(修士)	1,788
大学院(博士)	65
専門職大学院	149

事務組織図(平成20年3月31日現在)



発行 平成20年6月

この冊子に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1

学校法人甲南学園 総務部総務課

TEL.(078)435-2305

FAX.(078)435-2548

e-mail sohmu@adm.konan-u.ac.jp



甲南大学
甲南大学大学院

〒658-8501

神戸市東灘区岡本8-9-1

TEL.(078)431-4341(大代表)

ホームページ <http://www.konan-u.ac.jp>

甲南高等学校・中学校

〒659-0096

芦屋市山手町31-3

TEL.(0797)31-0551(代表)

ホームページ <http://www.konan.ed.jp>

フランス甲南学園トゥレーヌ
高等部・中等部

<日本事務所>

〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1

TEL.(078)431-4341(大代表)

(078)453-0115(直通)

ホームページ <http://www.t-konan.jp>

訂正とお詫び

『平成19年度甲南学園事業報告書』の記述に誤りがございました。
お詫び申し上げますとともに、次のとおり訂正させていただきます。

訂正一覧

該当箇所	訂正前	訂正後
7ページ 2 教育 (1)学位記の授与 ●修士課程 表 自然科学研究科	理 学 <u>40</u> 名 工 学 <u>1</u> 名	理 学 <u>37</u> 名 工 学 <u>4</u> 名
10ページ 主な講演会・シンポジウム等 ●甲南大学コミュニティ・デザイン・センター	島尾伸三写真展「生活」 <u>、「一瞬の光」</u>	島尾伸三写真展「生活」
●公開講座	秋期：「2007年問題を考える」 冬期：「バドミントン教室」	秋期：「2007年問題を考える」 フィールドワーク：「 <u>仏教文化を知り、東大寺を観る</u> 」 冬期：「バドミントン教室」